赤血球不規則抗体検査	910500
	担当部署
赤血球不規	輸血

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		該当なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		1）輸血歴・妊娠歴・投薬歴 2）疾患名（自己免疫疾患・寒冷凝集素病等） 3)検査材料の細菌又は化学汚染、材料の不適切な保存によって偽陽性や偽陰性反応が生じることがある。 4)検体に含まれる特異 IgG 抗体量が、本法の検出感度以下のときは陰性となる。 Bga、Bgb、Kna、Csa、Yka、JMH、McCa、Ch、Rg 抗原に対する抗体が本法で反応が弱く見られた例がある。また、自ら産生した抗体ではなく輸血などで受動的に獲得した反応性の弱い抗 D などの例では、他法で検出できても本法では検出ができないことがある。 5)取り扱い事項 数日間室温に放置された検体や、1～10℃で長期間保存された検体では、抗体の反応性が低下して、検出できなくなることがあるため 3 日以内に検査に供しなくてはならない。中性ゲルの分離剤が入った採血管は、偽陽性を生ずることがあるので使用してはならない。
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	該当なし
検体採取の特別なタイミング	該当なし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	EDTA 血	輸血関連検査	ＥＤＴＡ－２Ｎａ（顆粒）	5.5	mL
2					
3					
4					
5					

6					
7					
8					

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	採取容器違いの検体 バーコードラベルの貼られていない検体 採血後 長時間 1～10 ℃以外で保存された検体
保管検体の保存期間	7～10 日

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階 輸血部
測定時間	当日中
生物学的基準範囲	該当なし
臨床判断値	該当なし

基準値				単位	
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値

パニック値	高値	
	低値	該当なし
生理的変動要因		該当なし
臨床的意義		不規則抗体とは、ABO 血液型の抗 A、抗 B 以外の血液型抗原に対する抗体のことをいう。輸血や妊娠などの同種免疫を受けることで産生される免疫抗体（おもに IgG 型）と、同種免疫によらず産生される自然抗体（おもに IgM 型）がある。臨床的意義のある抗体はおもに IgG 型で、しばしば HTR や HDFN を引き起こす。不規則抗体スクリーニングは、患者血漿（血清）と供血者赤血球間で行われる交差適合試験と比べ、検出の感度および信頼性の点で優れている。可能なかぎり、不規則抗体スクリーニングは交差適合試験に先立って実施すべきである。輸血を必要とする患者の 1～2%が、臨床的に重要な不規則抗体を保有するとされている。不規則抗体スクリーニングとそれに引き続いて実施される同定検査は、こうした患者に適合した血液を選択するための重要な検査である。不規則抗体スクリーニングは、どの輸血予定患者についても、輸血前検査の一環として実施する必要がある。さらに、新生児溶血性疾患に対処するための出生前検査としても実施される。